

財政事情の公表

わがまちの家計簿(平成28年度決算から)

皆様のご家庭が、毎月の給料で食費や光熱水費、学費、ローン返済などの支払いをしながら生活しているように、市でも、皆さんから納付いただいた税金や国・府からの補助金、市債という借入金などの収入で、各種サービスの提供に必要な費用の支払いをしています。

今回は、平成28年度決算と平成29年度上半期(4月から9月まで)予算執行状況などについてお知らせします。

28年度決算状況

平成28年度の一般会計及び特別会計(企業会計除く。)の決算状況は第1表のとおりです。

「柏原市行財政健全化戦略(第2期)」に基づき、財政の健全化に取り組んだ結果、実質収支の黒字を維持することができました。

<第1表> 平成28年度各会計決算状況(企業会計除く。)

(単位:千円)

会計名	予算額 (A)	収入 (B)	支出 (C)	差引(形式収支) (B)-(C)=(D)	翌年度に繰越 すべき財源(E)	実質収支 (D)-(E)	
一般会計	27,220,327	24,187,202	23,988,690	198,512	20,337	178,175	
特別会計	国民健康保険 (事業勘定)	11,695,789	10,144,231	10,793,776	△ 649,545	0	△ 649,545
	国民健康保険 (施設勘定 堅上診療所)	12,473	9,644	9,644	0	0	0
	介護保険	6,122,014	5,988,404	5,753,865	234,539	0	234,539
	後期高齢者医療	851,678	863,247	835,252	27,995	0	27,995

まず一般会計の歳入を詳しく見てみると、右の第2表のとおりです。

【説明】

歳入の根幹をなす市税収入は、個人所得の増加や、徴収率の向上により、前年度に比べて0.04%の微減となりました。今後も人口減少や生産人口の減などの影響から厳しい状態が続くと見込まれます。

【主な歳入の増減と理由】

○繰越金: 前年度決算余剰金の増により、1億8,897万円の増

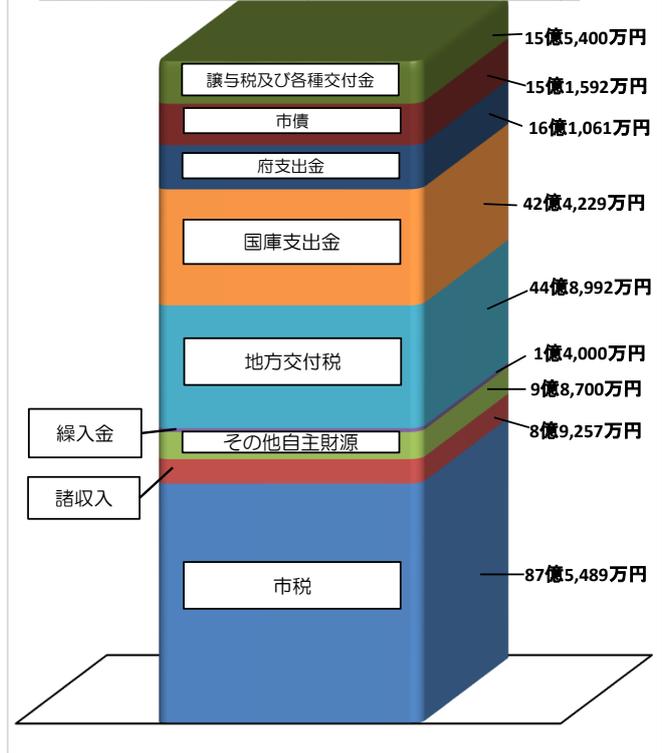
○繰入金: 庁舎建設基金の廃止によるものが皆減となり、18億1,515万円の減

○市債: 臨時財政対策債の減により、2億2,150万円の減

平成29年3月31日現在人口 70,452 人

<第2表> 一般会計歳入一覽

歳入総額 241億8,720万円(市民1人当たり34万3,315円)



つぎに一般会計の歳出を見ると、右の第3表のとおりです。

【説明】

職員給料の減額措置により大幅に支出が抑えられた一方で、扶助費や介護保険特別会計等の医療保険事業に対する繰出金などの社会保障経費に係る比率は大きく、厳しい状況が続いています。

今後も引き続き歳出抑制に取り組むことが重要となります。

【主な歳出の増減と理由】

○人件費：職員給料の減額措置により、1億1,608万円の減

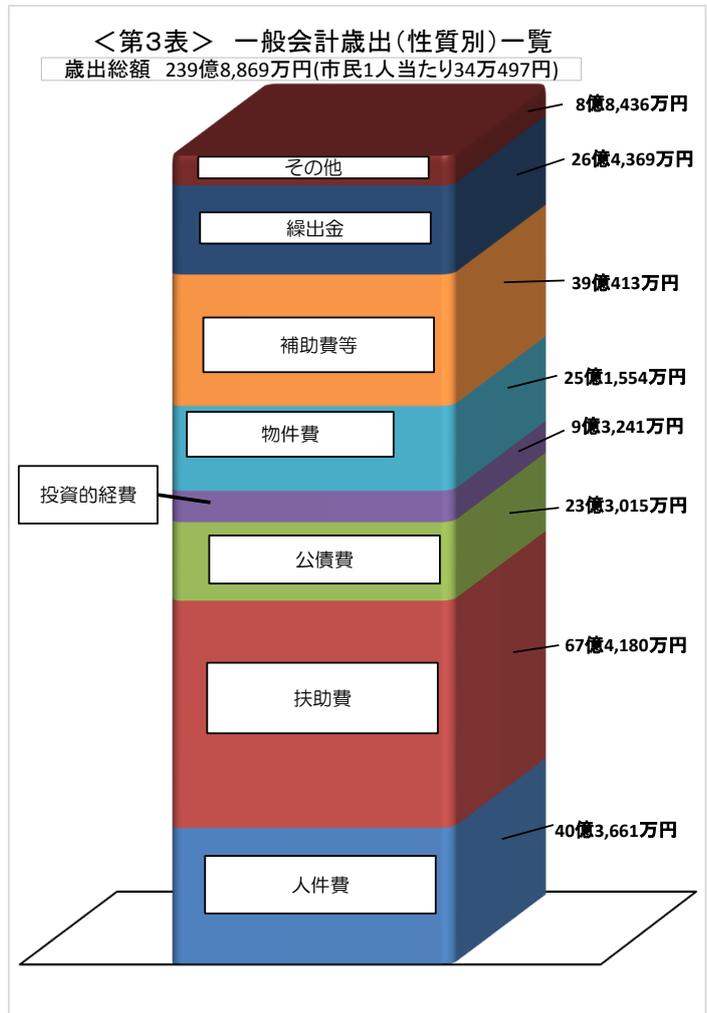
○扶助費：年金生活者等支援臨時福祉給付金事業、障害者(児)支援に係る給付費等の増などにより、1億7,358万円の増

○投資的経費：史跡鳥坂寺跡公有化事業、民間保育園等整備事業、情報セキュリティ強化対策事業などの事業費増加により、1億3,481万円の増

○積立金：財政調整基金への積立金や、まちづくり応援寄付金のふるさと基金への積立金の減により、11億7,218万円の減

市の財産

市の財産は、貯金に当たる積立金(基金)と市役所の本庁舎、学校、公園などの公有財産、負の財産である市債の大きく3つに分かれます。これらの財産の平成28年度末の状況は下記の第4・5・6表のようになりました。



＜第4表＞ 積立金(基金)現在高一覧

(単位:千円)

基金名	28年度末 積立金現在高	市民1人当たりの 積立金現在高(円)
主な基金	1,979,609	28,099
うち		
財政調整基金	1,681,434	23,866
公園等整備基金	273,853	3,887
公共施設等 整備基金	24,148	343
その他目的基金	1,031,185	14,636
うち		
老人福祉基金	319,530	4,535
文化・スポーツ 国際交流基金	228,657	3,246

※ 基金とは・・・

ある特定の目的のために積み立てられているもので、市の貯金です。柏原市もいくつかの基金があり、目的に応じて運用されています。ただ、財政調整基金だけは使用用途を制限されない積立金です。

＜第5表＞ 公有財産一覧

(単位:㎡)

区分	土地	建物
行政財産	公用財産	9,433
	公共用財産	563,844
普通財産	73,472	5,547
合計	646,749	169,076

※ 公用財産：市が直接業務に使用するもの(本庁舎、消防会館、出張所、教育センターなど)

※ 公共用財産：住民が一般的に共同利用するためのもの(学校、公園、保育所など)

※ 普通財産：上記2つ以外の全ての財産で、直接行政目的がないもの

<第6表> 市債現在高

(単位:千円)

会計名	28年度末 市債現在高	市民1人当たりの 市債現在高(円)
普通会計	19,437,393	275,896

※ 市債とは・・・

本来、学校や道路など長期間にわたって利用することができる施設を多額の費用をかけてつくる時に国や金融機関などから借りる長期的な借入金です。利用者の負担の公平性を保つため、長期で返済していきます。(一般家庭で言えば住宅ローンのようなものです。)

しかし、最近では、臨時財政対策債などの財源不足を補てんするための特例的な市債の残高が増加しています。

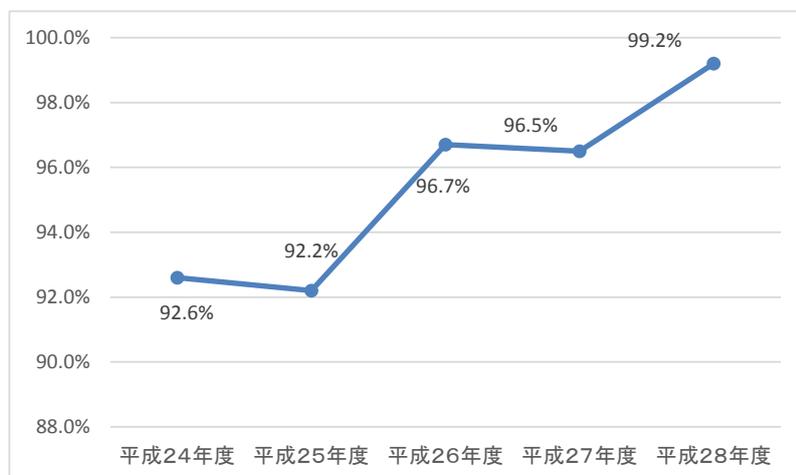
28年度決算からわかること

～財政構造の硬直化と厳しい財政運営～

下の第7表のグラフは、財政構造の弾力性を示す経常収支比率の推移です。平成28年度については、前年度より2.7ポイント悪化し、99.2%となりました。

少子高齢化や人口減少などにより歳入の増加が見込めない中、社会保障関係費の増加、老朽化する公共施設の維持管理経費の増加などを考えると、今後も厳しい財政運営が見込まれます。

<第7表> 経常収支比率一覧



※ 経常収支比率とは・・・

毎年度継続して収入される市税などの経常的収入が、毎年度決まって支出される人件費、扶助費のような経常的支出にどれだけ充当されたかを示す指標。おおむね80%を超えないことが望ましいと言われている。

数値が低いほど財政に余裕があることを示す点でエンゲル係数(家計の消費支出に対する食料費の割合)に似ている。

～全力で取り組みます。～

このような状況の中、「柏原市行財政健全化戦略(第2期)」を基本に、財政の健全化を図りながら、将来に向かって夢のあるまちづくりを行っていくために、事務・事業の見直しや効率化、経費の削減、歳入の確保などに、より一層取り組んでいきます。

29年度上半期予算執行状況

29年度上半期(4月から9月まで)の各会計における収入・支払の状況は下の第8表のとおりです。

<第8表> 平成29年度上半期各会計執行状況(企業会計除く。)

(単位:千円)

会計名	予算額 (A)	収入 (B)	収入割合 (B)÷(A)	支出 (C)	支出割合 (C)÷(A) %	収支差引額 (B)-(C)	
一般会計	25,890,731	12,308,761	47.5	11,071,873	42.8	1,236,888	
特別会計	国民健康保険 (事業勘定)	11,025,111	3,582,288	32.5	5,258,828	47.7	△ 1,676,540
	国民健康保険 (施設勘定 堅上診療所)	12,126	1,623	13.4	3,478	28.7	△ 1,855
	介護保険	6,428,548	3,256,542	50.7	2,392,482	37.2	864,060
	後期高齢者医療	891,412	325,441	36.5	285,772	32.1	39,669

平成29年9月30日現在人口 70,251 人

また、各会計における市債の9月30日時点での現在高は次の第9表のとおりです。

<第9表> 市債の現在高

(単位:千円)

会計名	9月30日時点の 市債現在高	市民1人当たりの 市債現在高(円)
普通会計	18,174,028	258,701